

2001.9.28

居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

テーマ：棚田を持つ農山村における微気象観測

現代の居住空間は機械的な環境調整手法に頼りがちですが、地球環境問題の解決が急務となっている中で、先人の知恵を現代に応用することによって、環境への負荷が少ない居住空間を創り出すことは重要な課題であると考えられます。

ところで、熊本県には、自然エネルギーを有効に利用してきた集落や民家が数多く見られます。このような集落や民家を調査・研究することによって、気候風土に合致し、かつ環境への負荷の少ない居住空間を創造することができると考えられます。

そこで今回は、他集落から隔離されながら、急斜面に展開する棚田によって、これまで生活を営んできた農山村集落である八代郡坂本村の日光集落を対象として、棚田および集落の微気象を観測し、その実態を明らかにすることを試みます。

具体的には、

- 1) 移動気象観測ステーションを用いて、棚田周辺の微気象を長期間にわたって観測します。
- 2) 同じ型式の移動気象観測ステーションを用いて、集落内の代表的な微気象を長期間にわたって観測します。
- 3) 集落内のいくつかの地点で、気温、相対湿度ならびに風向・風速を測定し、その分布を明らかにします。